

### トマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数が増加しています。 トマト圃場等への飛び込みや発生に注意しましょう。

トマトキバガは、令和3年に熊本県で初めて発生が確認された侵入害虫で、主な寄主植物であるナス科（トマト等）を食害します。

茨城県では、令和4年から県内4地点にフェロモントラップを設置して調査を行ったところ、令和5年10月に県内で初めてトマトキバガ成虫の誘殺を認めました（令和5年10月24日発表 病害虫発生予察特殊報 第1号 参照）。

本年は、3月中旬からフェロモントラップ調査を行ったところ、成虫の誘殺は昨年よりも早い9月上旬から認められ、その後も昨年より多い誘殺を認めています。

現在のところ、県内のトマトキバガによる農作物の被害は認められていませんが、他県では、冬期間でもハウス内での発生が継続的に確認されていますので、今後もハウス内への飛び込みや発生に注意しましょう。

トマトキバガの発生や被害が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡してください。

#### [県内での発生状況]

県内4地点に設置したフェロモントラップへのトマトキバガ成虫の誘殺数の推移は図のとおりで、

- ① 令和5年は、10月中旬に成虫の誘殺を確認し、11月末まで調査を行ったところ、計5頭が誘殺された。
- ② 令和6年は、9月上旬に成虫の誘殺を確認し、その後は増加傾向で推移し、10月上旬までの調査において、昨年より多い誘殺を認めている。

#### [トマトキバガの形態の特徴]

- ① 成虫は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色で、翅頂下でえぐれる（写真1）。
- ② 終齢幼虫は、体長約8mm、体色は淡緑色~淡赤色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある（写真1）。

#### [トマトでの被害の特徴]

- ① 茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の被害は、ハモグリバエ類の食害痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する。トマトキバガの食害部分は表面のみを残した薄皮の袋状になり、葉の裏面からでも透けて見える（写真2）。
- ② 果実では、幼虫が食入して内部を加害し、数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する（写真3）。

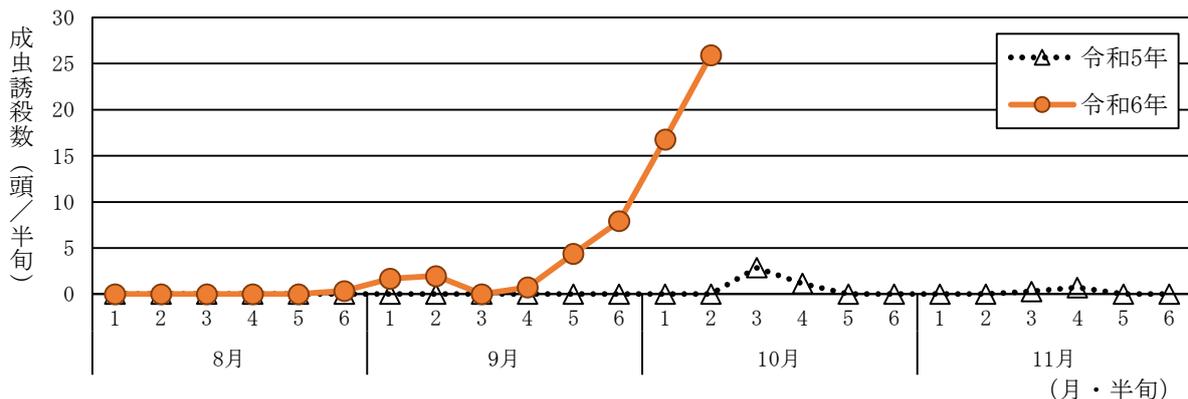


図 フェロモントラップへのトマトキバガ成虫の誘殺数（県内4地点合計）

### [防除対策]

- ① 施設栽培では、開口部に目合い0.8mm以下の防虫ネットを設置し、施設内への侵入を防ぐ。  
施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ② 圃場をよく観察し、初期の被害を見逃さないようにする。トマトキバガの発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡する。
- ③ 被害葉や被害果は、圃場から持ち出し、野外に放置せずに、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- ④ 圃場での発生が認められた場合は、発生を拡大させないため、薬剤散布を行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 現在、トマトキバガに対して登録のある農薬の適用作物はトマト、ミニトマトのみである。  
薬剤防除にあたっては、最新の農薬登録情報を確認する。  
(農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)



写真2 トマトキバガ幼虫によるトマト被害葉



写真3 トマトキバガ幼虫によるトマト果実の食害

(写真1、2、3は農林水産省植物防疫所原図)